

令和4年 日田市観光動態調査報告書

一般社団法人日田市観光協会

1 調査概略

この調査は、令和4年（1月～12月）の市内の主要な宿泊施設（38施設）の宿泊者数及び、主要観光施設（45施設）の来館者数、イベント・祭り来場者数および地域経済分析システム「RESAS」を用いて調査したもの。

- ・令和4年の宿泊客数は318,795人で、令和3年と比べ46%増加した
- ・令和4年の国内宿泊者数は311,171人で、令和3年と比べ43%増加した。

また、国内宿泊客の構成を発地別に見ると、福岡県からの宿泊客が最も多く（構成比37%）、次いで大分県内（16%）、その他九州（県内・福岡県除く）（構成比16%）となった。

- ・令和4年外国人宿泊客数は7,624人で、令和3年と比べ1053%増加した。
- ・令和4年の日帰り観光客推計値は2,030,945人で、令和3年と比べ18%増加した。

市内宿泊客の動向

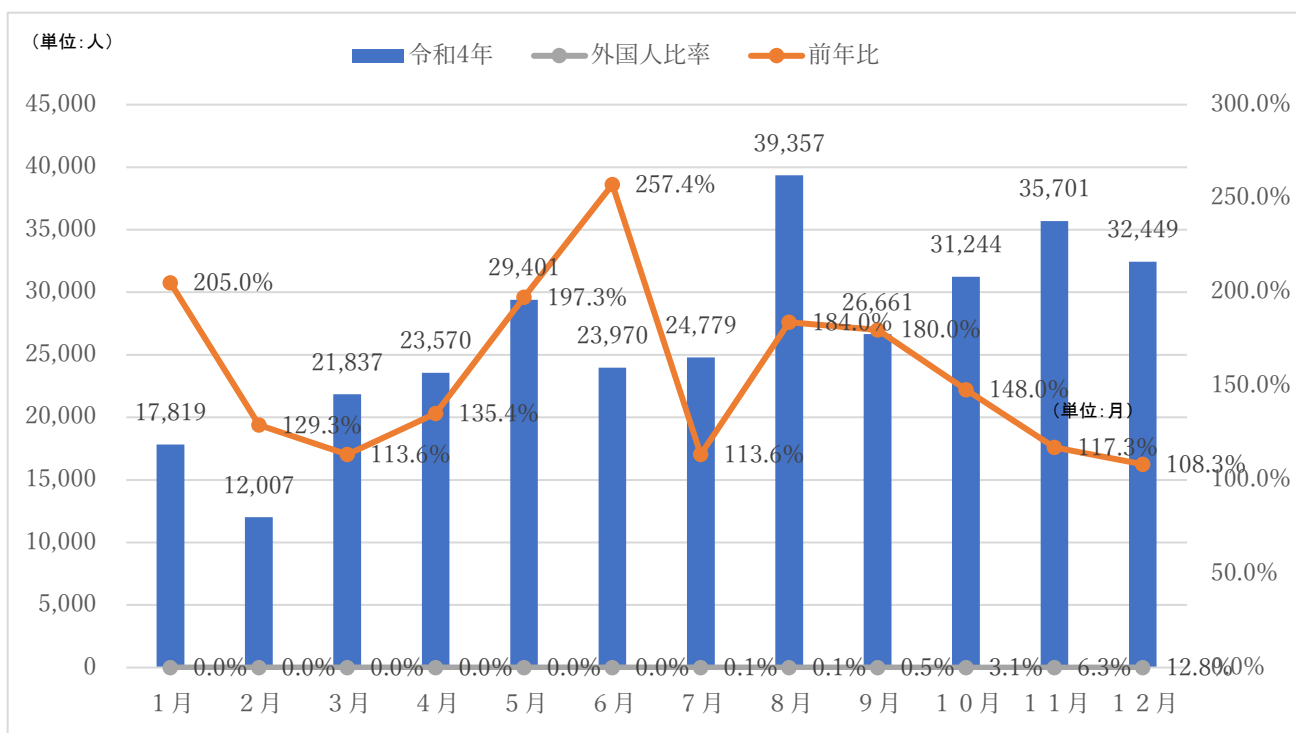
令和4年の市内における宿泊客数は、令和3年と比べ46%増加した。

新型コロナウイルス感染症の及び観光消費喚起策（新しいおおいた旅割）による影響が大きくみられる。

【図表1】令和4年月別宿泊数

大分県：新しいおおいた旅割（2/21～10/10）、第2弾（10/11～12/27）

日田市：日田の恩返し第5弾（～1/31）、水が磨く郷ひた旅CP第1弾（9/1～11/30）第2弾（12/9～2/28）



2 国内宿泊客数の動向

令和4年の国内宿泊客数は、令和3年と比べ43%増加した。【図表2】

月別では12月を除くすべての月で前年を上回り、特に1,5,6,8,9月は前年を大きく上回った。【図表3】

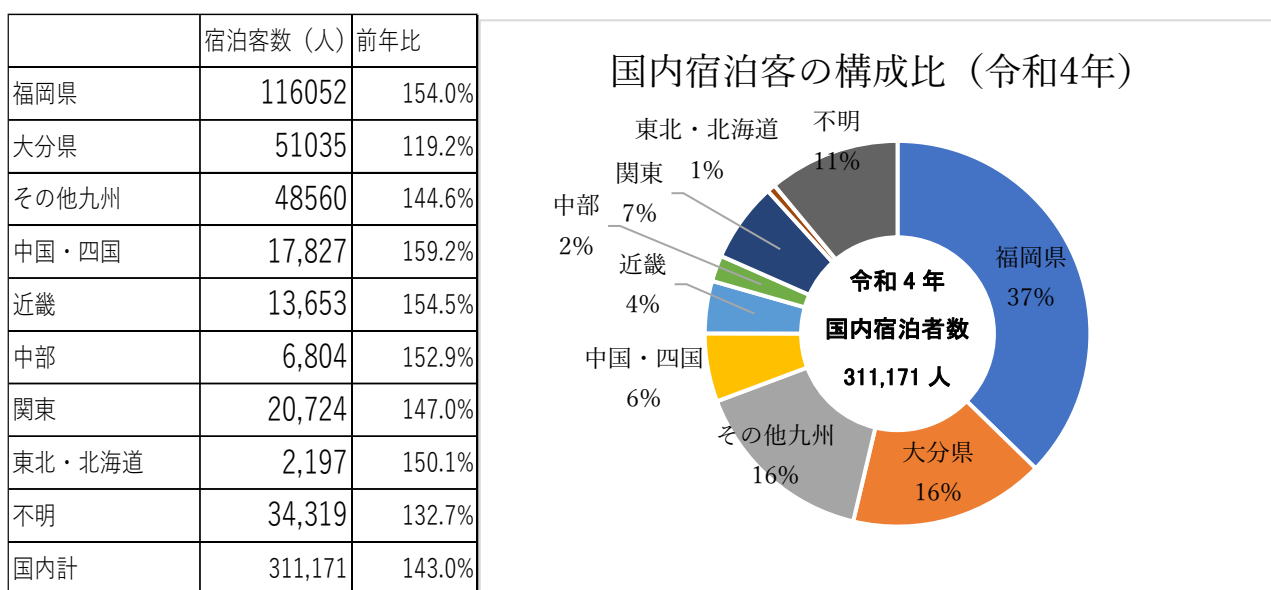
発地別に見ると福岡県からの宿泊客数が最も多く37%を占め、次いで大分県内が16%、その他九州が16%の順となっており、近隣からの宿泊客が約7割を占める状況である。【図表2】

地区別宿泊客数は、旧日田市や天瀬町では例年みられる季節的な変動ではなく、新型コロナウイルスの感染拡大状況や「新しいおおいた旅割」「日田の恩返しキャンペーン」に合わせた客数の増減が見られる。【図表3】【図表4】

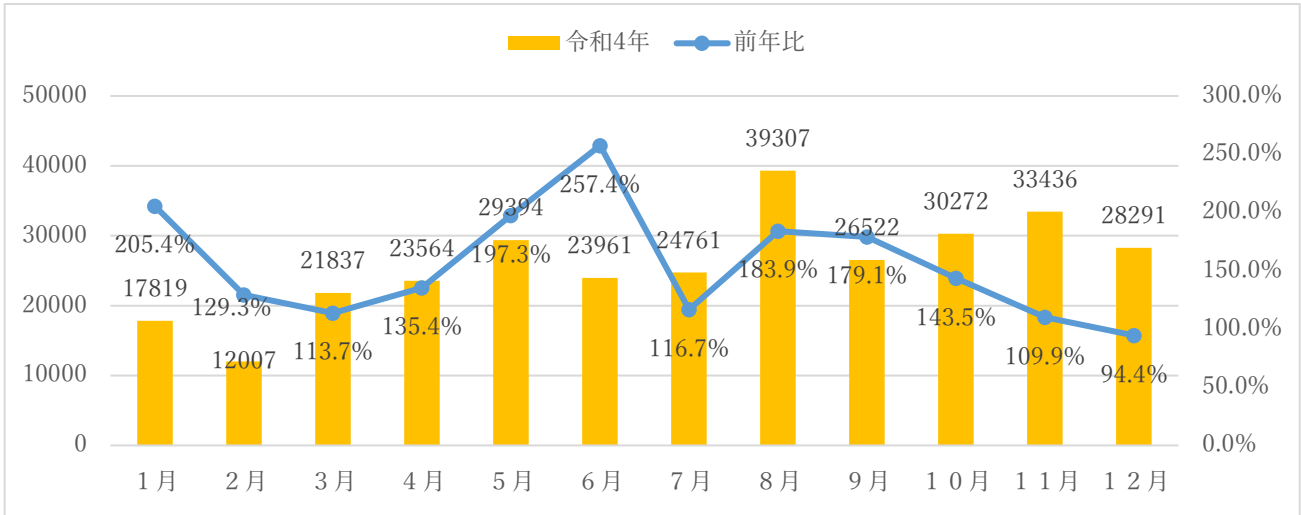
また、旧日田市は令和3年と比べ37.1%増、令和元年と比べ13%の減まで回復してきている。天瀬地区は令和3年と比べ84.4%増、令和元年と比べ51%の減となった。コロナ禍に加え令和2年7月豪雨による宿泊施設の休業の影響が大きいとみられる。奥日田地区は令和3年と比べ46%増、令和元年と比べ30.7%の減となった。【図表5】

福岡県・大分県からの宿泊者の構成率について、福岡県からが依然として高い構成率となっている。大分県と合わせると約6割と高い比率となっている。マイクロツーリズムの浸透と各種旅行支援策の影響とみられる。【図表6】【図表7】

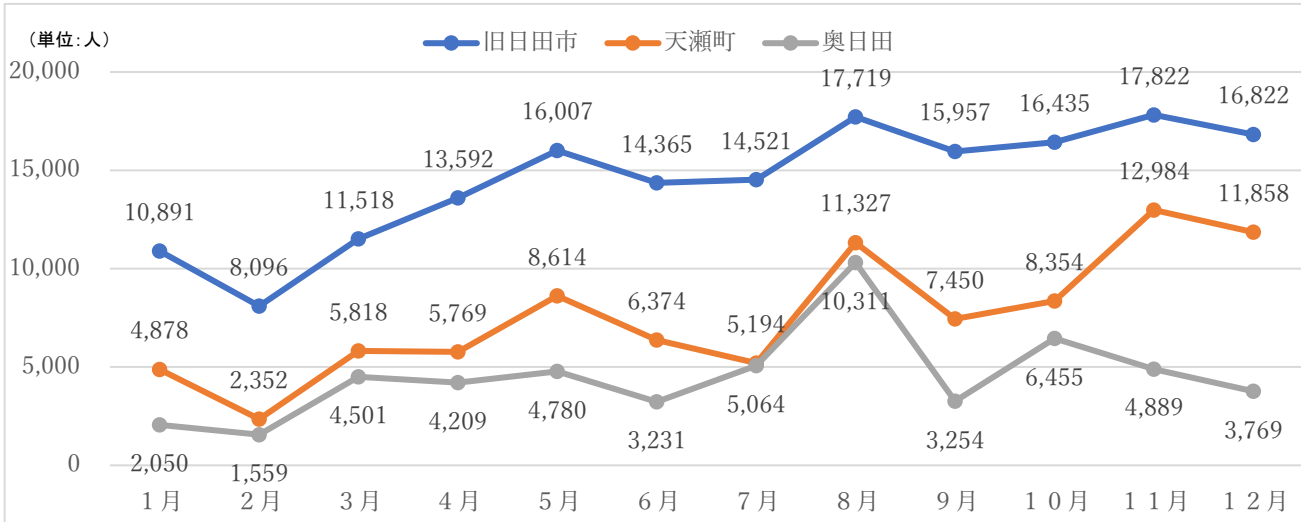
【図表2】 国内発地別宿泊客数及び構成比



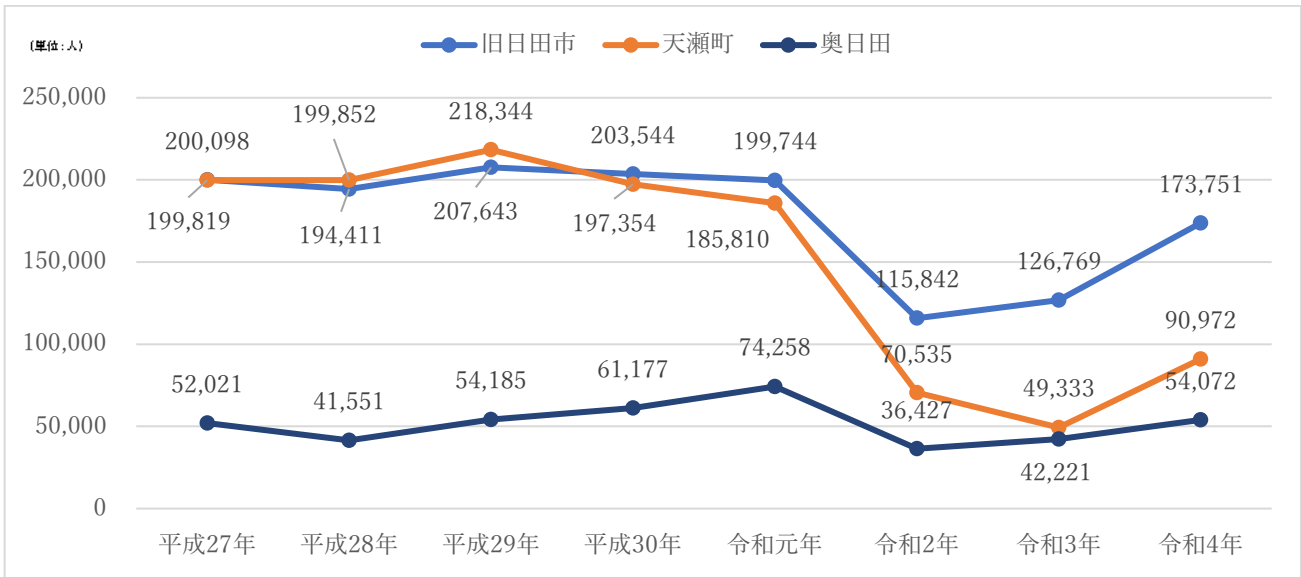
【図表 3】 令和4年国内宿泊客数



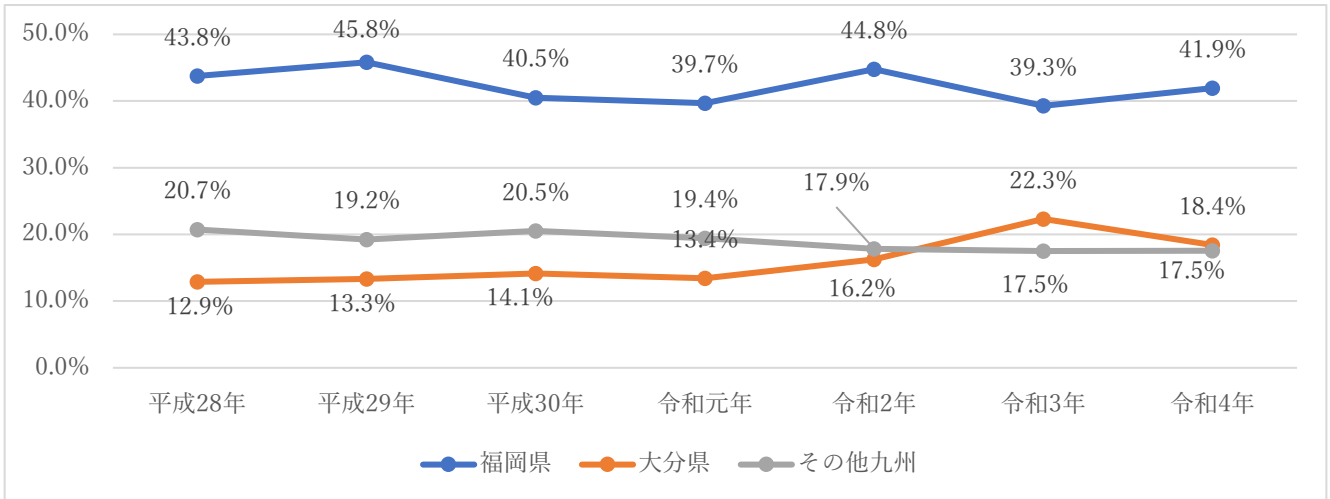
【図表 4】 令和4年地区別宿泊客数の月推移



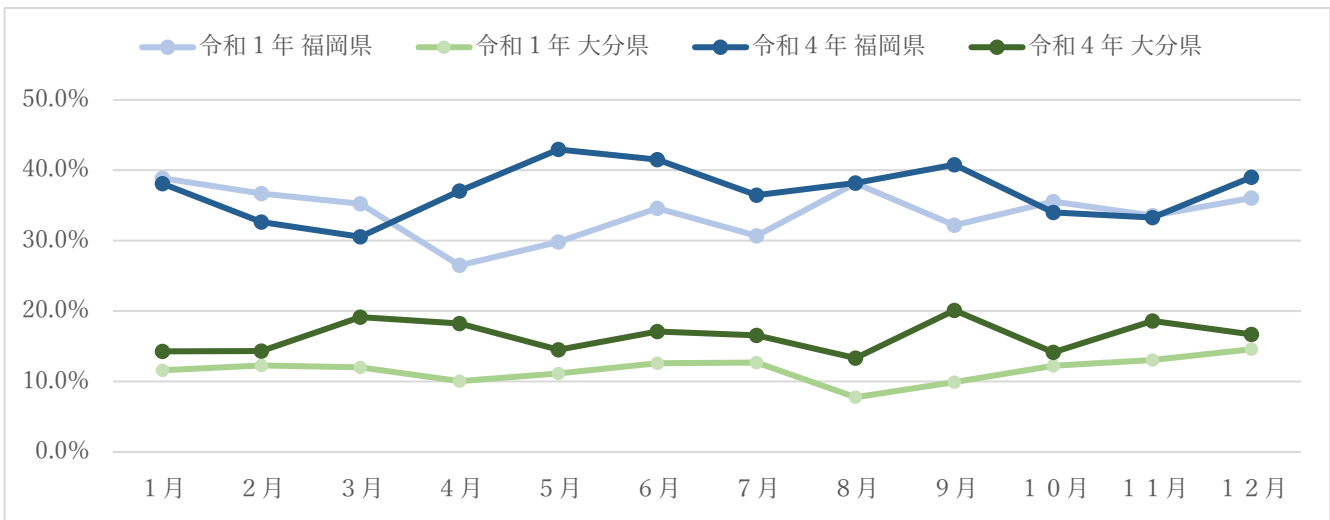
【図表 5】 地区別宿泊者数の年推移



【図表 6】 福岡県・大分県からの宿泊客数の国内宿泊客における構成率の年推移



【図表 7】 令和 4 年福岡県・大分県からの宿泊客数の国内宿泊客における構成率の月推移
(令和元年との比較)



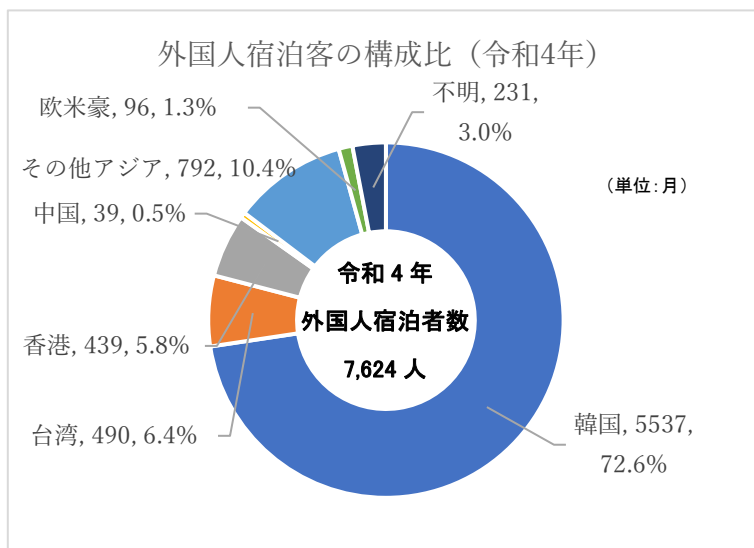
3 外国人宿泊客数の動向

令和4年の外国人宿泊客数は、令和3年と比べ953%増加した。【図表8】

外国人宿泊客の国籍・地域別構成比を見ると、韓国からの宿泊客が最も多く、外国人宿泊客全体の72%を占める。次いで台湾、香港の順となっており、香港、タイ・マレーシア等のその他アジアを含めたアジア圏で約9割以上を占めている。【図表8】

【図表8】外国人発地別宿泊客数及び構成比

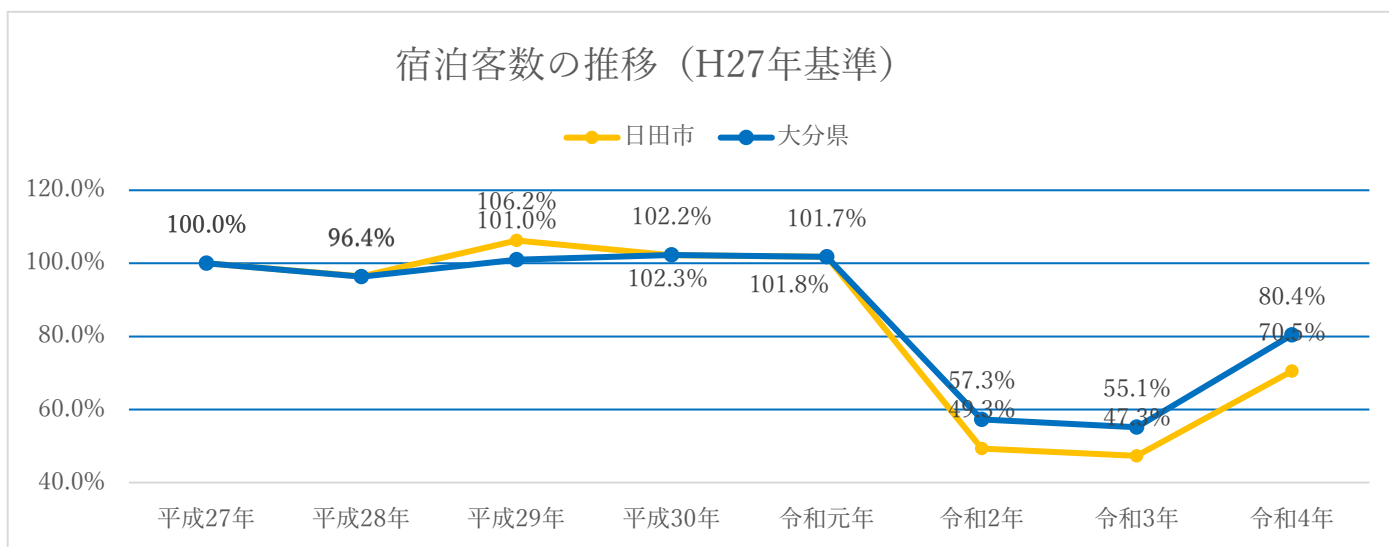
	宿泊客数	前年比
韓国	5537	29042.1%
台湾	490	#DIV/0!
香港	439	#DIV/0!
中国	39	#DIV/0!
その他アジア	792	3860.0%
欧米豪	96	-84.3%
不明	231	2466.7%
国外計	7624	1053.4%



4 宿泊客の増減

本市と大分県の宿泊客の増減率（平成27年から令和4年の8年間）を見ると、熊本地震の影響で平成28年の宿泊客数が減少した。その後の災害からの復興キャンペーンやインバウンド対策により平成29年は増加した。令和2～3年は新型コロナウイルス感染拡大による影響が大きい。

【図表9】日田市・大分県の宿泊客の推移（宿泊客数の増減(平成27年比)）

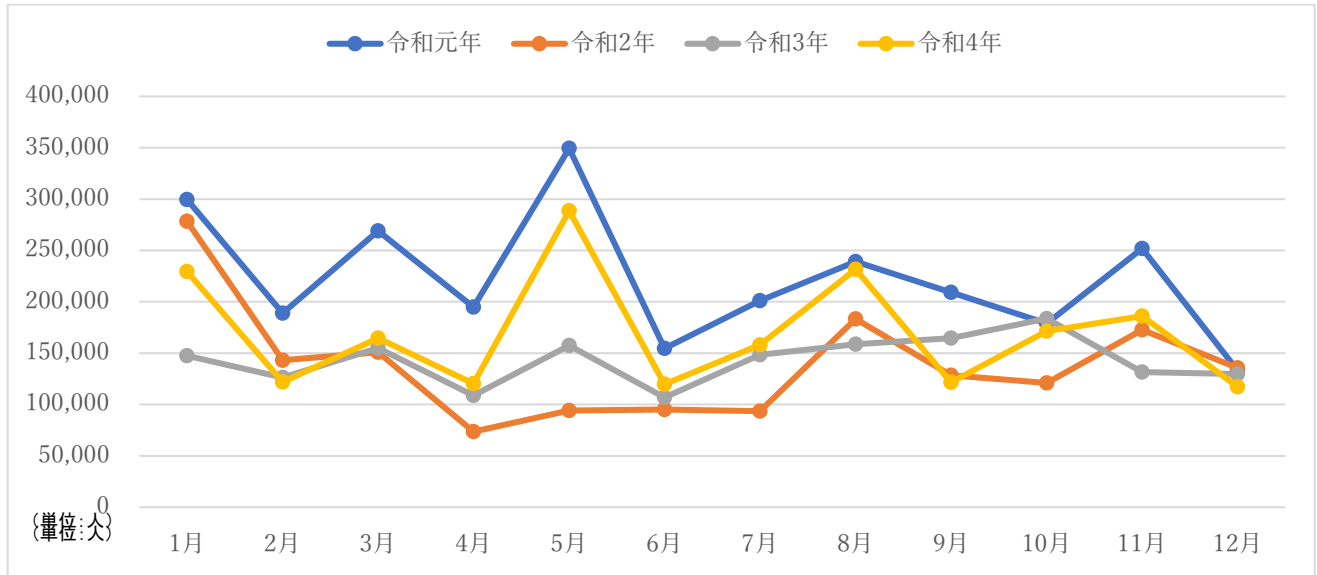


5 日帰り観光客の動向

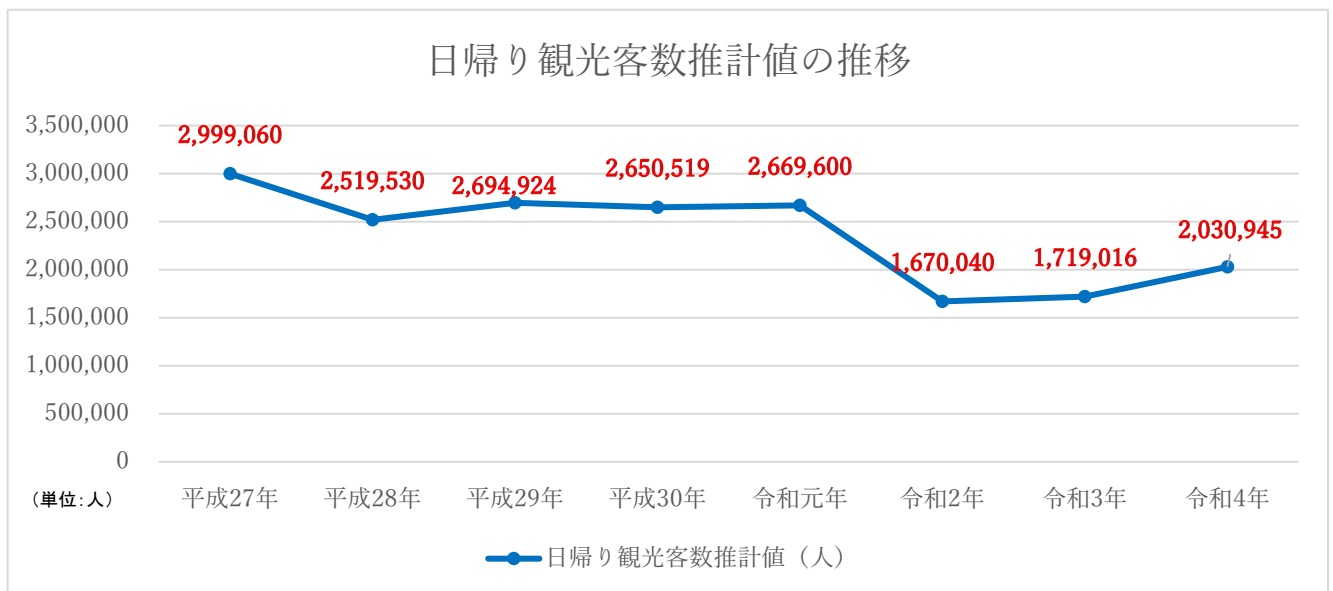
令和4年の本市のRESASによる日帰り観光客（昼間人口－夜間人口※RESASによる）は、5、8、10月がピーク。【図表10】

平成28年に各世代とも大きく落ち込んだが、30代～50代、70代は令和2年より増加したが、20代、60代は減少した。【図表11】

【図表10】日帰り観光客数の月推移



【図表11】日帰り観光客数の推計値（日田市観光統計とRESAS滞在人口の平均値）



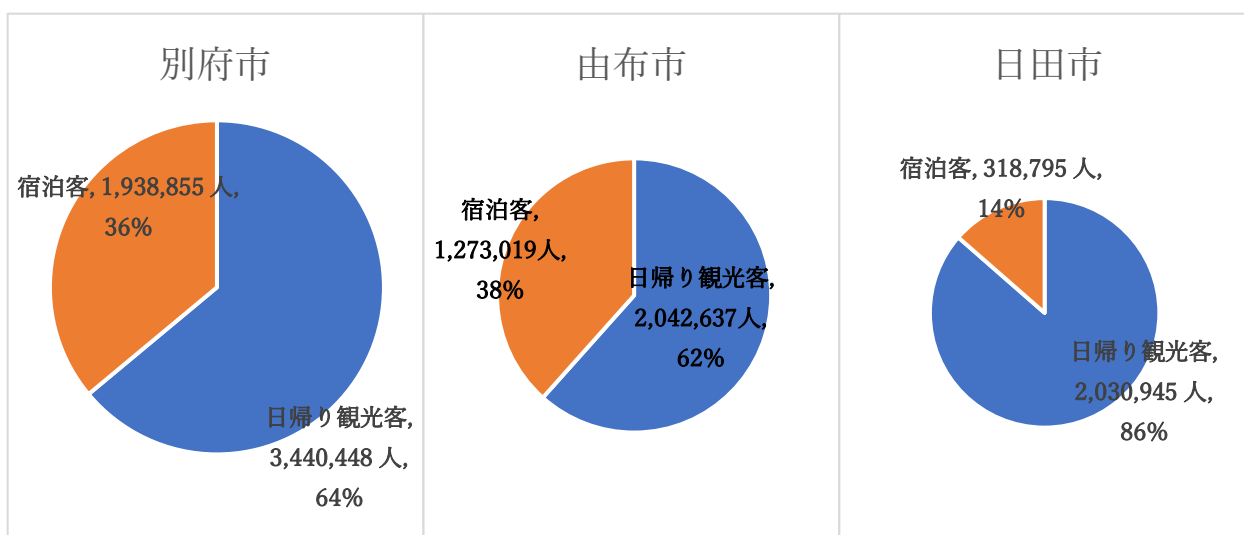
6 宿泊客と日帰り観光客の割合

宿泊率は令和元年から約 3%減少した昨年より上昇し、13.6%となった。本市の観光入込客の 10～15%が宿泊客であり、周辺観光地と比較すると宿泊観光客の割合が少なく、立ち寄り地となっている。宿泊率向上につなげる観光施策が必要と考えられる。【図表 12】【図表 13】

【図表 12】 宿泊客と日帰り観光客の割合

	平成 29 年	平成 30 年	令和元年	令和 2 年	令和 3 年	令和 4 年
日帰り観光客数推計値	2,694,924	2,650,519	2,669,600	1,670,040	1,719,016	2,030,945
宿泊客数	480,172	462,075	459,812	222,804	213,823	318,795
宿泊率	15.1%	14.8%	14.7%	11.8%	11.1%	13.6%

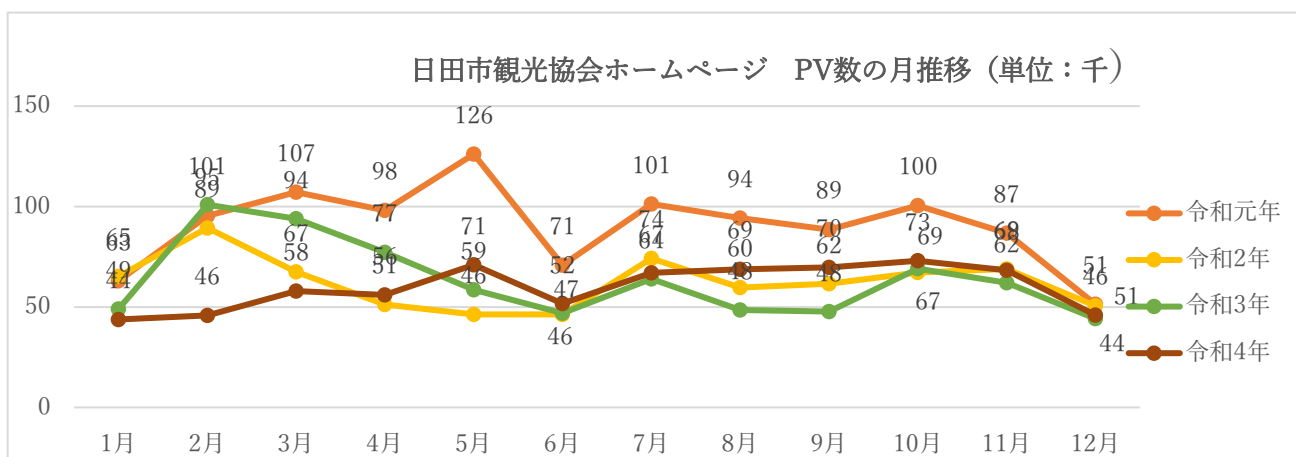
【図表 13】 他自治体との観光入込客の比較（令和 3 年）



7 日田市観光協会ホームページのアクセス状況

新型コロナウイルス感染症の 5 類移行（5 月）を境に前年と比べて増加傾向に転じたが、合計では前年比 5.7%減少した。【図表 14】

【図表 14】 ページビュー（PV）数の推移



8 観光消費額と経済波及効果

1) 観光消費額（推計）

令和4年の観光消費額：268億615万円

令和4年の旅中アンケート調査から得られた1人当たり観光消費額から算出した令和4年の観光消費額は268億615万円となった。

① 令和4年 旅中アンケート調査結果（2022年）から推計する1人当たりの観光消費額及び大分県観光実態調査報告書からみる大分県内での1人当たり観光消費額

	日田市内（前回調査）	大分県内
日帰り旅行	9,749円（7,081円）	6,372円（5,998円）
宿泊旅行	21,978円（26,208円）	49,602円（41,664円）

② 日帰り観光客推計値及び市内宿泊客数から算出する観光消費額

令和3年	入込客数	観光消費額（推計）
日帰り観光客	2,030,945人	197億9,968万円
宿泊観光客	318,795人	70億647万円
（合計）	2,349,740人	268億615万円

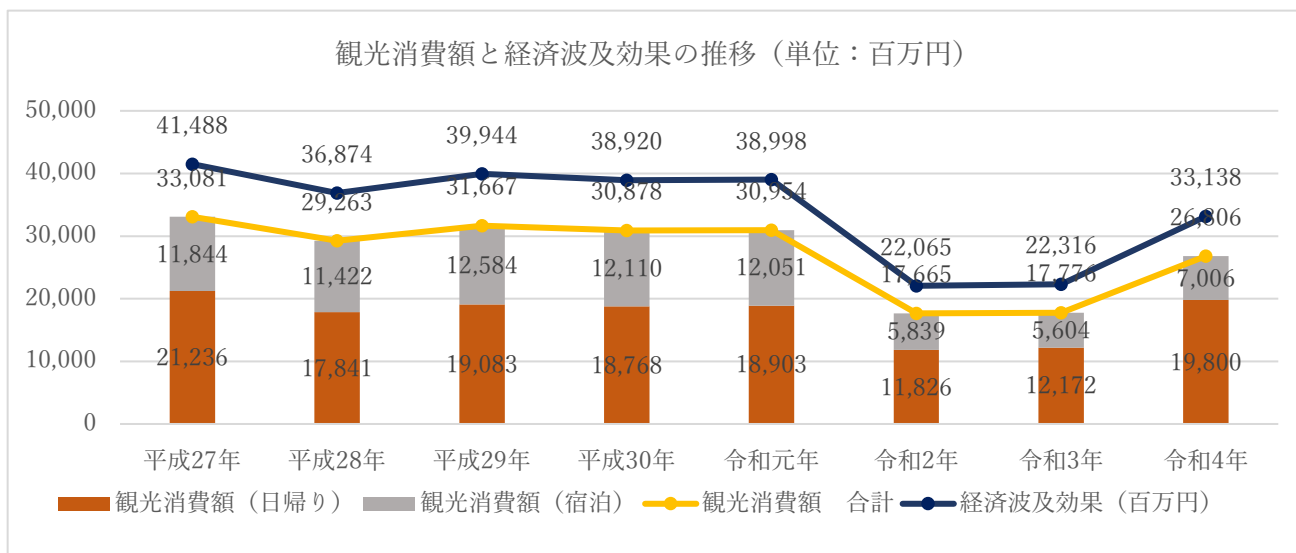
※日田市の観光消費額を算出する上での観光入込客数は、日帰り観光客は、日田市観光統計とRESAS滞在人口の平均値、宿泊客数は日田市観光統計の数値を使用する。

2) 令和4年の経済波及効果（生産誘発額）

令和4年総合効果：331億3,800万円

観光消費額は前年比50.8%増、経済波及効果は前年比48.4%増。

【図表15】



※平成23年（2011年）「大分県産業連関表 経済波及効果分析ツール 与件データ作成ツール」を使用し、一人当たり観光消費額は旅中調査結果の数値を使用し算定した。